

発信基地のような役目も担っていければと思います。

暮らしの質を高めるために

福島育成園  
管理者 藤原 勇治

福島育成園は昨年1月より、施設入所支援と生活介護を提供する、障害者支援施設に体系移行しました。体系移行より1年以上経過し、その中でさまざまな課題が見えてきました。特に、障害者支援施設特有の大きな課題として、「職員配置」があります。



ももとは、入所・通所の更生施設として別々に運営されていたからこそ余計に目立ったのですが、日中活動単体のサービス提供をする事業所と比較して、障害者支援施設では、365日24時間の体制でサービスを提供しているため、どうしても日中活動に配置できる職員体制が手薄になってしまうのです。また、職員の勤務もローテーション勤務になっているため、いつも同じ職員が同じ時間に勤務しているわけではなく、保護者の方も不安を感じられたりすることもあるようです。それだけでなく、行事等を実施する際に、職員の配置などに制約があったりすることもあります。そのような厳しい状況ではありますが、平成25年度の福島育成園では、与えられている条件の中、これまで以上にさまざまな工夫をして、利用者の皆さんに、安心して、快適に、楽しく利用していただけるような施設運営を目指したいと思います。

具体的には、暮らしの質をより高めていけるような取り組みを考えたいと思います。例えば、現時点で既に、年齢や身体的に日中活動が作業活動以外の内容が良いと考えられる人が何名か見られます。その人たちに合った活動の内容を検討し、実施します。また、作業以外の活動の充実を図ります。できるだけ施設を出て、街の中で過ごし、季節や地域での当たり前の暮らしを感じられるようなプログラムを検討します。制約があるため、大掛かりな行事などの実施は限られますが、毎日の暮らしの中で、さりげないごく当たり前の活動を丁寧に行っていきたいと思います。そのような取り組みを地道に、こつこつと進めながら、利用者のお一人お一人が望む暮らしはどのようなものか、その暮らしを実現するためにはどのような支援や体制が必要なのかを十分考えていきたいと思います。その際

にはきっといろいろな方の支援が必要となると考えています。



異動職員の紹介の会

福島育成園はご本人を中心に、行政や地域の方に支えていただきながら、さまざまな社会資源などを積極的に活用し、さらに保護者の方や親の会会員の皆様のお力添えをいただきながら、利用者それぞれの豊かな暮らしの実現に努力して参りたいと思います。今後とも福島育成園へのご支援よろしく願いいたします。

街とともに暮らす人を支える

福島育成園  
地域支援室長 林 祥子

このたびの人事異動により、長年通い慣れた港区弁天町に別れを告げ、新たな気持ちで福島育成園 地域支援室に赴任いたしました林 祥子です。ここでは、ケアホームの運営と区内にお住まいの方を対象とした障がい者相談支援センターが業務の中心になります。



ケアホームでは、当たり前のことが当たり前に行えることが大切です。季節のものを食べ、元気に仕事へ行き、温かく迎え入れる仲間がいる環境が、利用者の方々の快適で健康な暮らしに繋がるのではないかと感じています。共同生活ですから、お互いへの配慮や制約もありますが、世話人さんの心遣いやスタッフの対応などにより少しでも利用者の方々の望む生活環境を提供できるよう努めていきたいと思っています。

相談支援については、担当者が日々、サービス利用計画の作成や地域資源の開拓・コーディネートなどに奔走しております。《with you〜ウィズ・ユー》という愛称が浸透し、みなさんに親しまれていま